

# 1 皆さんへの情報伝達・連絡の方法

みなさんへの告示、通知、呼出しなどは、学生ポータルサイト DENDAI-UNIPA（以下、UNIPA（ユニパ））で「掲示」します。本文中に記載されている「掲示」とは、主に UNIPA に届く通知・連絡を指します。

講義の休講・補講、教室の臨時変更などの連絡をはじめ、履修登録（受講する科目の選択）や成績の発表、学生生活に必要な情報など、あらゆる連絡・手続きの手段として UNIPA を利用します。

自分で責任を持って、必ず毎日複数回 UNIPA を確認し、見落としや手続き漏れが生じないように注意して、充実した学生生活を送ってください。

UNIPA に関しては、P.55「学生ポータルサイト「DENDAI-UNIPA」操作マニュアル」で詳しくご案内していますので確認してください。

UNIPA 画面

## 2 履修登録

授業科目配当表、時間割表をもとに研究指導教員に確認のうえ、指示された方法に従い、履修登録を行ってください。履修登録をしていない科目（無届科目）の受講・受験は許されません。また、単位の認定も行われません。

履修登録の変更、追加は履修登録期間中、履修登録確認および修正期間中に UNIPA で行って下さい。履修登録の詳細（方法や期間）は、掲示等で案内します。

## 3 履修することができる授業科目

履修登録をすることにより、次の授業科目を履修することができます。

### ① 自分の所属する専攻の授業科目

### ② 他の専攻の授業科目

研究指導教員が教育研究の指導上必要と認めたときは、自分の所属専攻に配当されていない本学大学院の他専攻（工学研究科・理工学研究科・情報環境学研究科の専攻も含む）の授業科目を履修することができます。

科目数の制限はありませんが、修了要件単位に算入することのできる単位は「特例扱いの科目（他大学院科目等）」と合わせて 10 単位までです。

### ③ 豊かな教養科目

未来科学研究科では以下の科目を 3 専攻共通の「豊かな教養科目」として開講しています。

- 建築学専攻…「デジタル放送論」「情報セキュリティ実践概論」「IT とビジネスモデル A と同 B」
- 情報メディア学専攻…「安全都市システム論」「IT とビジネスモデル A と同 B」
- ロボット・メカトロニクス学専攻…「安全都市システム論」「デジタル放送論」「情報セキュリティ実践概論」

なお、ロボット・メカトロニクス学専攻においては「豊かな教養科目」より 2 単位以上修得することが修了要件の 1 つとなっていますので、注意してください。

### ④ 特例扱い

以下のものについては、所定の要件を充たせば本学で履修したものと同様に扱われます。他専攻の授業科目と合わせて 10 単位を上限として、修了要件に算入できます。研究指導教員と相談のうえ、工学部・未来科学部事務部で手続きを行い、未来科学研究科委員長の承認を得る必要があります。詳細は大学院学則第 15 条～第 17 条をお読み下さい。

- (1) 他大学の大学院（東京理工系4大学・首都大学院コンソーシアム）または外国の大学院において履修した授業科目
- (2) 入学前の既修得単位
- (3) 他の大学院または研究所等における研究指導

## 4 他大学院との単位互換協定に基づく 授業科目履修の扱い

未来科学研究科では、大学間の学術交流を通じて大学院における教育・研究活動のより一層の充実を図るため、首都大学院コンソーシアム、東京理工系4大学と単位互換協定を結んでいます。

本協定により、希望者は所定の手続きをとることにより、各大学院の授業科目を受講することができます。これにより取得した単位は、本学未来科学研究科委員会が教育上有益と認めた場合、その取得した単位のうち10単位を超えない範囲で、未来科学研究科における授業科目の履修により取得したものとしてみなされます（大学院学則第15条）。この協定に基づく履修手続きの詳細は掲示によりお知らせします。科目によっては、有料となる場合があります。

協定大学

- ・ 首都大学院コンソーシアム大学  
共立女子大学、順天堂大学、専修大学、玉川大学、中央大学、東京理科大学、東洋大学、日本大学、法政大学、明治大学
- ・ 東京理工系4大学  
東京都市大学（旧：武蔵工業大学）、工学院大学、芝浦工業大学

## 5 昼夜開講制の実施

未来科学研究科では「昼夜開講制」を実施しております。具体的には、授業科目によっては昼間5時制限の時間帯に加え夜間6時限（18：10～19：40）7時限（19：50～21：20）の時間帯を設けています。

## 6 授業

### ① 授業科目・単位等

各専攻に開講されている授業科目および単位数は「授業科目配当表」に掲載されている通りです。

### ② 学期

前期 4月1日～9月上旬まで

後期 9月上旬～翌年3月31日まで

詳細はその年の学事日程を確認してください。

### ③ 授業時間

時限	時間
1時限	9:00～10:30
2時限	10:40～12:10
3時限	13:10～14:40
4時限	14:50～16:20
5時限	16:30～18:00
6時限	18:10～19:40
7時限	19:50～21:20

### ④ 休講・補講・集中講義

#### (1) 休講

学校行事を行う場合、科目担当教員の都合等で授業が休講になる場合は、掲示等で知らせます。

#### (2) 補講

授業回数が不足した場合には、補講を行います。補講の有無は科目担当教員によって指示され、日程は授業や掲示等により連絡します。

#### (3) 集中講義

授業科目によっては、授業期間外に集中して授業を行うことがあります。

なお、詳細な日程については、決まり次第、掲示等で連絡します。

## ⑤ 交通機関のストライキ及び自然災害発生時等の授業措置について

### (1) 交通機関がストライキ等により運休の場合

首都圏JR各線及び東京千住キャンパス最寄駅（北千住駅・京成関屋駅）に乗り入れる私鉄・地下鉄各線がストライキ等により運休と報道された場合の授業の取扱いは、次のとおりです。

- 1) 午前6時において運休の場合は、第1・2時限目の授業は休講となります。
- 2) 午前9時において運休の場合は、第3・4・5時限目の授業は休講となります。
- 3) 午後3時において運休の場合は、第6・7時限目の授業は休講となります。

※その他の私鉄のみがストライキ等により運休のときは、平常通り授業を行います。

### (2) 台風等による暴風警報が発令された場合

東京23区に暴風警報が発令されている場合の授業の取扱いは、次のとおりです。

- 1) 午前6時において暴風警報が発令されている場合は、第1・2時限目の授業は休講となります。
- 2) 午前9時において暴風警報が発令されている場合は、第3・4・5時限目の授業は休講となります。
- 3) 午後3時において暴風警報が発令されている場合は、第6・7時限目の授業は休講となります。

なお、暴風警報が発令されていない場合でも、気象状況は時間の経過とともに変化することがありますので、状況に応じて休講の措置をとる場合があります。大学発表の情報を必ず確認してください。

また、授業開始以後に暴風警報が発令された場合は、学内放送、大学ホームページ及びポータルサイトで授業措置の情報を発信します。

### (3) その他、緊急事態の状況によっては、前述にかかわらず別途の措置を講ずる場合があります。

### (4) 上記の措置を行う場合、直ちに大学ホームページ及びポータルサイトへ掲載するので、各自確認してください。

## 7 シラバス（講義要目）

シラバスには、科目名、配当学年、配当期、単位数、必選区分、担当者名、目的概要、達成目標、関連科目、教科書名、評価方法、テーマ・内容、オフィスアワー、履修上の注意等の授業科目に関する情報が掲載されています。

しっかりと授業科目の概要をつかんだ上で履修計画を作成すると共に、常時確認することにより確実に知識を積み重ねていってください。

なお、シラバスは UNIPA にて閲覧できます。

## 8 試験及び成績評価

### ① 試験

試験は、原則としてその授業の終了する学期末あるいは、学年末に行われます。授業科目によっては、平常の成績またはレポート、口頭試問等をもって試験に代えることがあります。

なお、試験は履修登録した授業科目以外受験することはできません。

### ② 成績評価

成績は S・A・B・C および D の評価で表記されます。

成績評価は次の評点に対応します。

合否	評点	成績評価	GPA ポイント
合格	90～100	S	4
	80～89	A	3
	70～79	B	2
	60～69	C	1
不合格	0～59	D	0
	放棄	—	0

※ R…認定された科目。GPA 計算には含まれません。

※ 成績証明書には D・— は表記されません。

※  $GPA = \frac{\text{各科目の単位数} \times \text{当該科目で得た GPA ポイント}}{\text{履修した科目の単位数の合計}}$

※ GPA は小数点第 4 位を四捨五入した値で、履修中の科目は含めません。

### ③ 成績通知

前年度末までの成績通知は 3 月頃に、前期末までの成績通知は後期開始前 9 月に行います。成績通知の方法、期間は UNIPA にて知らせます。

## 9 研究指導実施体制

### ① 指導体制

- (1) 指導教員は、学生の希望に基づき専攻が決定します。
- (2) 指導教員は、前期終了までに副指導教員 1 名を決定し、効果的な支援のための複数指導体制を整えます。場合によっては、指導教員の責任において、指導体制を変更することを可能とします。
- (3) 指導教員は、副指導教員とともに学生と面談を行い、研究課題の設定を指導・助言します。
- (4) 指導教員は、履修科目の選択をはじめ、専門プログラム・専門研究科目など全般について、指導・助言を行います。
- (5) 指導教員は、修了に向けて定期的に副指導教員とともに学生と面談を行い、研究活動の進捗状況を確認し、必要に応じて研究課題、研究方法、研究スケジュール等の見直し・修正を学生に指導・助言します。
- (6) 指導教員並びに副指導教員は、いずれも所属する専攻の研究指導教員（MO合）の資格を有する者とします。

### ② 研究活動

- (1) 指導教員は、研究指導の一環として、必要に応じ国内外の学会等における学生の論文発表等の指導を実施します。
- (2) 指導教員は、本研究科が定める『修士論文またはこれに代わる研究成果の審査基準』に基づき、複数の審査員によって、修士論文またはこれに代わる研究成果物の審査を行います。

## 10 修了要件

### ① 修了単位

課程を修了するためには、修士課程に2年以上在学し、各専攻が定める次の要件を満たす所要科目 30 単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格しなければなりません。

また、修士課程の目的に応じ適当と認められるときは、特定の課題についての研究の成果（研究成果報告書）の審査をもって修士論文の審査に代えることができます。

在学期間に関しては、優れた業績をあげた者については、1年以上の在学で修了を認めることができます。

【建築学専攻】

以下のプログラムから択一必修とし、入学時に研究指導教員との相談により決める。入学時に決定したプログラムは、在学中変更できない。

(1) 高度専門プログラム（研究コース）・職能教育プログラム（スタジオコース）共通科目 建築技術・知識演習Ⅱ（必修）	2単位
(2) 高度専門プログラム（研究コース） 上記（1）の共通科目に加えて、 建築学特別研究Ⅰ（必修） 建築学特別研究Ⅱ（必修） その他の専門科目 （※インターンシップV～X、建築学専門研修Ⅰ・Ⅱから2科目以上修得 （選択必修）することを含む）	4単位 4単位 20単位以上
(3) 職能教育プログラム（スタジオコース） 上記（1）の共通科目に加えて、 建築学特別設計Ⅰ（必修） 建築学特別設計Ⅱ（必修） 建築学実習Ⅰ（必修） 建築学実習Ⅱ（必修） 建築学実習Ⅲ（必修） その他の専門科目 （※インターンシップV～X、建築学専門研修Ⅰ・Ⅱから2科目以上修得 （選択必修）することを含む）	2単位 2単位 2単位 2単位 2単位 18単位以上

【情報メディア学専攻】

以下のプログラムから択一必修とし、研究指導教員との相談により決める。

(1) 高度専門プログラム・職能教育プログラム共通科目 情報メディア学特別演習ⅠA（必修） 情報メディア学特別演習ⅠB（必修） 情報メディア学特別演習ⅡA（必修） 情報メディア学特別演習ⅡB（必修） 情報メディア学特別研究ⅠA（必修） 情報メディア学特別研究ⅠB（必修）	2単位 2単位 2単位 2単位 2単位 2単位
(2) 高度専門プログラム 上記（1）の共通科目に加えて、 情報メディア学特別研究ⅡA（必修） 情報メディア学特別研究ⅡB（必修） その他の専門科目	2単位 2単位 14単位以上
(3) 職能教育プログラム 上記（1）の共通科目に加えて、 情報メディア学特別制作A（必修） 情報メディア学特別制作B（必修） その他の専門科目	2単位 2単位 14単位以上



## 【ロボット・メカトロニクス学専攻】

(1) ロボット・メカトロニクス学特別研究Ⅰ（必修）	4単位
(2) ロボット・メカトロニクス学特別研究Ⅱ（必修）	4単位
(3) 特別輪講ⅠA、特別輪講ⅠB、特別輪講ⅡA、特別輪講ⅡB（必修）各1単位	
(4) 専門科目 （情報駆動システム部門、メカトロニクス部門、ロボット・デザイン部門）	8単位以上
(5) 専攻共通科目	2単位以上
(6) 「豊かな教養」科目	2単位以上

## ② 修士論文またはこれに代わる研究成果の審査基準

修士論文または特定課題の研究成果は、公表されている本研究科の『人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的』に即し、当該研究領域における修士としての確かな基礎学力を有し、独創性、創造性のある研究能力、実践的問題解決能力等を中心に、次の基準に基づき審査されます。

なお、論文審査及び学位授与審査に透明性、客観性を持たせるため、研究成果の発表は、公聴会形式で行うとともに、最終試験として、研究指導教員を含む審査員による口答試験が行われます。

- (1) 当該研究領域において修士としての確かな基礎学力を修得しているか。
- (2) 研究課題の設定が修士として妥当なものであり、研究遂行および論文作成または論文に代わる作品等の制作にあたっての問題意識が明確であるか。
- (3) 設定した研究課題の研究に際し、適切な研究方法、調査・実験を行い、それに基づく具体的な分析・考察がなされているか。
- (4) 当該研究領域において、独自の価値、新規性、有用性、信頼性を有するものとなっているか。
- (5) 問題点的確かな整理、把握、判断、解決までの実践的問題解決能力が身につけているか。
- (6) 論文または研究成果物の報告書に関しては、記述（本文、図表、文献、引用など）が適切であり、序文・本文・結論までが首尾一貫した論理構成となっているか。

## ③ 早期修了条件について

「優れた業績をあげた者」については、1年間もしくは1.5年間の在学期間での修了を認めます。以下の条件を充足した学生について早期修了を認めます。希望する場合は、半年前までに研究指導教員に相談して下さい。

- (1) 1年間終了時、もしくは1.5年間終了時に修了することを希望していること。
- (2) 入学後の1年間もしくは1.5年間で、各専攻が定める要件を満たす所要科目30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文またはこれに代わる研究成果物の審査及び最終試験に合格すること。

- (3) 修士論文またはこれに代わる研究成果物関連科目の成績評価が「A」以上であること。また、学術論文誌、学会誌等に1編以上の学術論文（査読付）の採録が確定していること。ただし、建築学専攻及び情報メディア学専攻においては、研究成果物を当該分野において公表し、権威ある賞を受けるなど高い評価を得た業績をもって学術論文（査読付）に代えることができます。この場合は、当該専攻主任により、学術論文（査読付）と同等とみなし、それに代えることができると認められる旨の文書提出が必要です。
- (4) 研究指導教員、専攻主任および研究科委員長が早期修了に相応しいと判断した者。

#### ④ 前期末修了（修了条件を満たさず修了延期になった者対象）

##### (1) 前期末修了の条件

2年次に合算して12ヶ月以上在学（休学期間は在学期間に含まない）した者を対象に前期末修了判定を実施します。判定時に休学中の者は対象としません。修了所要単位数など所定の修了条件を満たした時は、前期末修了（9月10日付）となります。

（所定の修了条件）

修了条件は入学した年度に学生に提示している修了条件を適用する。

##### (2) 前期末修了のための専門研究部門科目及びそれに類する科目の取扱い

本人からの申し出があり、かつ専攻主任・担当教員が許可する場合は、必要となる専門研究部門科目及びそれに類する科目の履修が可能です。

ただし、専門研究部門科目及びそれに類する科目以外に未修得の必修科目がある場合は、未修得科目の開講期で履修することとし、本取扱いの対象外となります。

専門研究部門科目に類する科目は以下の科目です。

・ 建築学専攻：「建築技術知識演習Ⅱ」

※ 職能教育プログラム履修者は、上記以外に「建築学実習Ⅰ」「建築学実習Ⅱ」「建築学実習Ⅲ」

履修登録については工学部・未来科科学部事務部へ問い合わせてください。

## 11 学位

未来科学研究科を修了した者については、大学院学則、本学学位規程の定めるところにより、修士の学位が授与されます。

本研究科が授与できる学位の種類およびそれに付記する専攻分野は次のとおりです。

修士課程

建築学専攻	修士（工学）
情報メディア学専攻	修士（工学）
ロボット・メカトロニクス学専攻	修士（工学）

## 12 修士論文等の取扱い

修士論文またはこれに代わる研究成果の提出および審査手順については「東京電機大学学位規程」(後掲)およびそれに基づく手順内規等があるので、未来科学研究科委員長、研究指導教員等の指示に従って下さい。

修士論文またはこれに代わる研究成果の提出スケジュール等については、修了年次にUNIPA等で確認して下さい。

### ① 修士論文

#### 論文作成上の注意事項

- (1) 原稿はA4判とし、Word等で作成します。
- (2) 1ページ目は、表紙とし、46ページの表紙見本のように作成します。
- (3) 本文、資料は通しページにします。
- (4) 行数、文字数の指定はありませんが左右2センチの余白をとります。
- (5) 作成した論文をPDFファイル化し、元のデータとともにCD-ROM等で提出します。PDFファイル化に関する注意事項は12月初旬にUNIPA等で案内します。
- (6) 提出された論文のPDFファイルはそのままCD-ROMにまとめるので、丁寧に作成して下さい。

#### 論文予稿の提出(参考:平成26年度の場合 平成27年1月23日(金)～26(月)まで)

- ① 原稿はA4判4枚とし、紙媒体で提出します。(提出の際は、右上に鉛筆でページ数を記入して下さい。)
- ② レイアウトについては「修士論文予稿見本」を参照して下さい。  
詳細は修了年次生にUNIPAで案内します。  
※予稿は、専攻毎に製本して修士論文および研究成果発表会前に配布します。

#### 論文の提出(審査用)(参考:平成26年度の場合 平成27年1月31日(土)まで)

- ① 研究指導教員、審査員に1部ずつ直接提出して下さい。
- ② 表紙は「修士論文表紙見本」を参照して下さい。

#### 論文の提出(大学保存用)(参考:平成26年度の場合 平成27年2月28日(土)まで)

最終版1部をPDFファイル化し、CD-ROM等で提出して下さい。

※CD-ROM化して本学図書館で永久保存されます。

#### 論文審査

論文(審査用)提出後、研究指導教員、審査員による論文審査(通常口頭又は文書)が行われます。試問日程については、研究指導教員、審査員の指示を受けて下さい。

## 修士論文および研究成果発表会（参考：平成 26 年度の場合 平成 27 年 2 月 14 日（土）予定）

発表会は、ポスターセッション形式で開催する予定です。発表者は1月より準備を開始して下さい。

発表方法等は、1月初旬に UNIPA にて修了年次生へ詳細を連絡します。

## ② 修士論文に代わる研究成果

### 研究成果報告書作成上の注意事項

研究成果物や研究成果報告書の提出形態は、研究テーマごとに異なりますので、研究指導教員の指示に従って下さい。

なお、研究成果報告書作成に係わる注意事項は、次のとおりとなります。

- (1) 原稿はA4判とし、Word 等で作成します。
- (2) 1 ページ目は、表紙とし、19 ページの表紙見本のように作成します。
- (3) 本文、資料は通しページにします。
- (4) 行数、文字数の指定はありませんが左右2センチの余白をとります。
- (5) 作成した研究成果報告書を PDF ファイル化し、元データとともに CD-ROM 等で提出します。PDF ファイル化に関する注意事項は 12 月初旬に UNIPA 等で案内します。
- (6) 提出された研究成果報告書の PDF ファイルはそのまま CD-ROM にまとめるので、丁寧に作成して下さい。

## 研究成果報告書予稿の提出（参考：平成 26 年度の場合 平成 27 年 1 月 23 日（金）～ 26 日（月）まで）

- ① 原稿はA4判4枚とし、紙媒体で提出します。（提出の際は、右上に鉛筆でページ数を記入して下さい。）
- ② レイアウトについては「研究成果報告書予稿見本」を参照して下さい。  
詳細は修了年次生へ UNIPA で案内します。

※予稿は、専攻ごとに製本して修士論文および研究成果発表会前に配布します。

## 研究成果報告書の提出（審査用）（参考：平成 26 年度の場合 平成 27 年 1 月 31 日（土）まで）

- ① 研究指導教員、審査員に1部ずつ直接提出して下さい。
- ② 表紙は「研究成果報告書表紙見本」を参照して下さい。

## 研究成果報告書の提出（大学保存用）（参考：平成 26 年度の場合 平成 27 年 2 月 28 日（土）まで）

最終版1部を PDF ファイル化し、CD-ROM 等で提出して下さい。

※ CD-ROM 化して本学図書館で永久保存されます。

**研究成果審査**

研究成果報告書（審査用）提出後、研究指導教員、審査員による審査（通常、口頭または文書）が行われます。

試問日程については、研究指導教員、審査員の指示を受けて下さい。

**修士論文および研究成果発表会（参考：平成 26 年度の場合 平成 27 年 2 月 14 日（土）予定）**

発表会は、ポスターセッション形式で開催する予定です。発表者は 1 月より準備を開始して下さい。

発表方法等は、UNIPA にて 1 月初旬に発表者へ連絡します。

**【修士論文予稿見本】**  
**【研究成果報告書予稿見本】**

論 文 題 目 ( 英 文 名 )	
学籍番号 研究指導教員	氏名 教授 氏名
本 文	

**【修士論文表紙見本】**  
**【研究成果報告書表紙見本】**

修 士 論 文 ※ 論 文 題 目 ( 英 文 名 )	
東京電機大学大学院未来科学研究科 ○○○専攻修士課程 学籍番号 氏名 研究指導教員 教授 ○○ ○○	

※研究成果報告書の場合は、「修士論文」を「研究成果報告書」として下さい。

## 13 教育職員免許状

### ① 取得することのできる教育職員免許状

教育職員免許状には学部卒業を基礎資格とする「1種免許状」と大学院修士課程を基礎資格とする「専修免許状」があります。本研究科修士課程の専攻を修了することにより次の免許教科の専修免許を取得することができます。

専攻	取得できる免許状の種類および教科
建築学専攻	高等学校教諭専修免許状「工業」
情報メディア学専攻	高等学校教諭専修免許状「情報」
ロボット・メカトロニクス学専攻	高等学校教諭専修免許状「工業」

### ② 専修免許状取得に必要な資格・条件等

次の2つの条件を満たさなくてはなりません。

- (1) 修士課程修了者または修士課程に1年以上在学し修士課程修了見込みの資格を有する者。
- (2) すでに、同一教科の「高等学校教諭1種免許状」を取得しているか、または免許状を取得してはいるが取得に必要な単位を取得済みであること。  
高等学校教諭1種免許状については、学部の学生要覧を参照して下さい。  
※1種免許状に必要な単位を取得していない場合は以下の⑤を参照

### ③ 専修免許状取得に必要な単位

それぞれの免許教科に係わる自専攻科目の単位が24単位以上必要です。  
どの授業科目が教科科目の単位として認定されるかは次によります。

- (1) 「工業」の専修免許取得に必要な単位  
建築学専攻、ロボット・メカトロニクス学専攻で開設されている授業科目で、科目配当表の教職欄が「工業」である科目の単位は、高等学校教諭専修免許状「工業」を取得するために必要な24単位の中に算入されます。
- (2) 「情報」の専修免許取得に必要な単位  
情報メディア学専攻で開設されている授業科目で、科目配当表の教職欄が「情報」である科目の単位は、高等学校教諭専修免許状「情報」を取得するために必要な24単位の中に算入されます。

### ④ 免許状申請手続

- (1) 一括申請（修士課程修了時に専修免許状を取得）

大学で免許取得希望者の手続きを一括して東京都教育委員会に申請し、修了式の当日に各自へ教育職員免許状を交付します。手続き等の詳細については、教職掲示板の指示に従って下さい。

(2) 個人申請

修士課程修了後に個人で教育職員免許状を取得することもできます。住所地の都道府県教育委員会に問い合わせ、必要な手続きを行って下さい。

⑤ **学部で1種教育職員免許状取得に必要な単位を取得していない者、又は学部で1種教育職員免許状取得に必要な単位を取得していても免許状をもっていない者**

学部段階で1種教育職員免許状取得に必要な単位を取得していない者であっても、修士課程で教育職員免許状を取得する道があります。いろいろなケースがありますので、学年始めに必ず工学部・未来科学部事務部窓口にて個別に相談して下さい。

また、学部在学中に適用となっていた免許法が何らかの改正等で変わることがあります。その場合は取得しなければならない科目が増えたりすることもありますので注意して下さい。

## 14 一級建築士受験資格要件（実務経験）

実務要件に関連する科目は下表の「①インターンシップ科目」、「②インターンシップ関連演習科目」、「③インターンシップ関連講義科目」に分類されます。①と②については、「設計・計画・意匠コース」、「構造コース」、「設備コース」の分野別に業務（実務）・演習の内容が変わります。また③については分野別に取得科目が決められています。

各コース（分野）を統一して取得する必要があるため、コース（分野）を横断したインターンシップは、一級建築士の受験資格としては認定されないため注意する必要があります。

実務要件年数別単位取得及び在学期間の条件（制限）							
実務要件 2年	① 14 単位以上、② 8 単位以下、③ 8 単位以下の条件で、①～③の合計 30 単位以上修得。 在学2年以上。						
実務要件 1年	① 4 単位以上、② 8 単位以下、③ 8 単位以下の条件で、①～③の合計 15 単位以上修得。 在学1年以上。						
実務要件に関連する科目							
	※（ ）内は単位数						
①の科目  何単位でも実務要件単位に認定可能	<p>&lt;学外インターンシップ&gt; インターンシップV (2)、インターンシップVI (2)、インターンシップVII (4)、 インターンシップVIII (4)、インターンシップIX (4)、インターンシップX (4)</p> <p>&lt;学内インターンシップ&gt; 建築学実習 I (2)、建築学実習 II (2)、建築学実習 III (2)、建築学実習 IV (2) ※スタジオコース履修者は「建築学実習 I～III」が必修。また「建築学実習 IV」は履修できません ※研究コース履修者は「建築学実習 I～IV」を履修できます</p>						
②の科目  実務要件 単位数は 最大 8 単 位が上限	<p>建築学特別設計 I (2)、建築学特別設計 II (2) ※スタジオコース履修者のみ「建築学特別設計 I と II」を履修可能かつ必修科目 建築技術・知識演習 I (2)、建築技術・知識演習 III (2) ※「建築技術・知識演習 I と III」は選択科目 建築技術・知識演習 II (2) ※「建築技術・知識演習 II」はプログラムを問わず必修科目。在学中に二級建築士を取得した場合は単位を認定します</p>						
③の科目  実務要件 単位数は 最大 8 単 位が上限	<table border="1"> <tr> <td>設計・計画・意匠 コース (8 科目)</td> <td>都市デザイン論 (2)、建築形態論 (2)、建築空間デザイン論 (2)、 近代建築論 (2)、地域施設計画論 (2)、環境情報デザイン論 (2)、 建築環境心理生理 (2)、建築生産論 (2)</td> </tr> <tr> <td>構造コース (10 科目)</td> <td>安全都市システム論 (2)、空間構造創成論 (2)、建築構造設計論 (2)、 構造デザイン認識論 (2)、建築鋼構造論 (2)、建築生産論 (2)、 建築ハイブリット構造論 (2)、コンピューターデザイン論 (2)、 コンピューターによる骨組解析論 (2)、建築防災工学論 (2)</td> </tr> <tr> <td>設備コース (6 科目)</td> <td>建築空間デザイン論 (2)、環境情報デザイン論 (2)、 建築環境形成技術論 (2)、建築環境形成論 (2)、 建築環境心理生理 (2)、安全都市システム論 (2)、 ※スタジオコース履修者は原則設備分野を選択することはできません</td> </tr> </table>	設計・計画・意匠 コース (8 科目)	都市デザイン論 (2)、建築形態論 (2)、建築空間デザイン論 (2)、 近代建築論 (2)、地域施設計画論 (2)、環境情報デザイン論 (2)、 建築環境心理生理 (2)、建築生産論 (2)	構造コース (10 科目)	安全都市システム論 (2)、空間構造創成論 (2)、建築構造設計論 (2)、 構造デザイン認識論 (2)、建築鋼構造論 (2)、建築生産論 (2)、 建築ハイブリット構造論 (2)、コンピューターデザイン論 (2)、 コンピューターによる骨組解析論 (2)、建築防災工学論 (2)	設備コース (6 科目)	建築空間デザイン論 (2)、環境情報デザイン論 (2)、 建築環境形成技術論 (2)、建築環境形成論 (2)、 建築環境心理生理 (2)、安全都市システム論 (2)、 ※スタジオコース履修者は原則設備分野を選択することはできません
設計・計画・意匠 コース (8 科目)	都市デザイン論 (2)、建築形態論 (2)、建築空間デザイン論 (2)、 近代建築論 (2)、地域施設計画論 (2)、環境情報デザイン論 (2)、 建築環境心理生理 (2)、建築生産論 (2)						
構造コース (10 科目)	安全都市システム論 (2)、空間構造創成論 (2)、建築構造設計論 (2)、 構造デザイン認識論 (2)、建築鋼構造論 (2)、建築生産論 (2)、 建築ハイブリット構造論 (2)、コンピューターデザイン論 (2)、 コンピューターによる骨組解析論 (2)、建築防災工学論 (2)						
設備コース (6 科目)	建築空間デザイン論 (2)、環境情報デザイン論 (2)、 建築環境形成技術論 (2)、建築環境形成論 (2)、 建築環境心理生理 (2)、安全都市システム論 (2)、 ※スタジオコース履修者は原則設備分野を選択することはできません						



## (1) 実務2年を目指す場合の履修例

## &lt;研究コースの例&gt;

## ①インターンシップ科目

建築学実習Ⅰ(2) + 建築学実習Ⅱ(2) + 建築学実習Ⅲ(2) + 建築学実習Ⅳ(2) + インターンシップⅦ(4) + X(4) = **16単位**

## ②インターンシップ関連演習科目

建築技術・知識演習Ⅰ(2) + 建築技術・知識演習Ⅱ(必2) + 建築技術・知識演習Ⅲ(2) = **6単位**

## ③インターンシップ関連講義科目

・意匠コース：都市デザイン論(2) + 建築形態論(2) + 建築空間デザイン論(2) + 近代建築論(2) = **8単位**

・構造コース：安全都市システム論(2) + 空間構造創成論(2) + 建築構造設計論(2) + 構造デザイン認識論(2) = **8単位**

・設備コース：建築空間デザイン論(2) + 環境情報デザイン論(2) + 建築環境形成技術論(2) + 建築環境形成論(2) = **8単位**

**① 16単位 + ② 6単位 + ③ 8単位 = 30単位 (>=30単位)**

## &lt;スタジオコースの例&gt;

## ①インターンシップ科目

建築学実習Ⅰ(2) + 建築学実習Ⅱ(2) + 建築学実習Ⅲ(2) + インターンシップⅦ(4) + Ⅷ(4) = **14単位**

## ②インターンシップ関連演習科目

建築学特別設計Ⅰ(2) + 建築学特別設計Ⅱ(2) + 建築技術・知識演習Ⅰ(2) + 建築技術・知識演習Ⅱ(必2) = **8単位**

## ③インターンシップ関連講義科目

・意匠コース：都市デザイン論(2) + 建築形態論(2) + 建築空間デザイン論(2) + 近代建築論(2) = **8単位**

・構造コース：安全都市システム論(2) + 空間構造創成論(2) + 建築構造設計論(2) + 構造デザイン認識論(2) = **8単位**

\* 職能教育プログラムは設備分野を選択することはできません。

**① 14単位 + ② 8単位 + ③ 8単位 = 30単位 (>=30単位)**

## (2) 実務1年を目指す場合の履修例

## &lt;研究コースの例&gt;

## ①インターンシップ科目

建築学実習Ⅰ(2) + インターンシップⅤ(2) = **4単位**

## ②インターンシップ関連演習科目

建築学実習Ⅰ(2) + 建築学実習Ⅱ(必2) = **4単位**

③インターンシップ関連講義科目

- ・ 意匠コース：都市デザイン論 (2) + 建築形態論 (2) + 建築空間デザイン論 (2) + 近代建築論 (2) = 8 単位
- ・ 構造コース：安全都市システム論 (2) + 空間構造創成論 (2) + 建築構造設計論 (2) + 構造デザイン認識論 (2) = 8 単位
- ・ 設備コース：建築空間デザイン論 (2) + 環境情報デザイン論 (2) + 建築環境形成技術論 (2) + 建築環境形成論 (2) = 8 単位

① 4 単位 + ② 4 単位 + ③ 8 単位 = 16 単位 ( > 15 単位 )

<スタジオコースの例>

①インターンシップ科目

建築学実習 I (2) + 建築学実習 II (2) + 建築学実習 III (2) = 6 単位

②インターンシップ関連演習科目

建築学特別設計 I (2) + 建築学特別設計 II (2) + 建築技術・知識演習 II (必 2) = 6 単位

③インターンシップ関連講義科目

- ・ 意匠コース：都市デザイン論 (2) + 建築形態論 (2) = 4 単位
  - ・ 構造コース：安全都市システム論 (2) + 構造デザイン認識論 (2) = 4 単位
- \* 職能教育プログラムは設備分野を選択することはできません。

① 6 単位 + ② 6 単位 + ③ 4 単位 = 16 単位 ( > 15 単位 )

## 15 先端科学技術研究科博士課程（後期）進学

先端科学技術研究科博士課程（後期）に進学を希望する者は、できるだけ多くの科目を幅広く履修しておくことが望まれます。

なお、被推薦資格等については、先端科学技術研究科博士課程（後期）学内推薦入試募集要項を参照して下さい。

## 16 留学・海外語学研修

本学では、海外の協定校等での語学研修や留学プログラムに参加することを、推奨しています。3週間程度の語学研修から1年未満の留学までさまざまな形態があるので、事前の準備等も含めて計画的に検討するようにしてください。

### (1) 留学・海外語学研修の種類

#### ①英語短期研修

海外協定校にて実施されている英語短期研修プログラムは以下のとおりです。各大学の語学教師による少人数教育であり、所定の成績を修めれば「科学英語Ⅰ」の単位として認定されます。

1) コロラド大学ボルダー校（米国）：8月に実施（約3週間）、募集は5月頃

#### ②その他の海外研修

単位の認定はありませんが、上記に加えて以下の語学研修等を実施しています。（いずれも主に学部生を対象としていますが、応募者数等により大学院生の派遣も検討しますので、国際センターに問い合わせをしてください）

1) 韓国語研修：大邱大学（韓国）にて、8月に実施（約3週間）、募集は5月頃

2) 中国語研修：中原大学（台湾）にて、3月に実施（約3週間）、募集は10月頃

3) インドネシア研修：ヌサンタラマルチメディア大学（インドネシア）にて、3月に実施（約2週間）、募集は10月頃

#### ③協定校留学

本学と外国の大学との学生交流協定によって留学する制度です。協定校への留学に関する要望については個別に対応していますので、国際センターに問い合わせをしてください。

#### ④認定校留学

留学希望者本人が外国の大学等から留学または受入れ許可を取り、本学がこれを許可し、留学する制度です。

※本学では学生諸君が在学中に海外の大学に留学することを制度として認めています。留学とは外国の大学またはこれに相当する高等教育機関に一定期間在学して教育を受けることを言います。事前に所定の申請手続きを行い留学と認められる必要があり、事前の許可を受けずに渡航したり、相手先大学の正規教育課程以外のコースで学んだりしても、本学からの留学とは認められないので注意すること。

### (2) 留学・海外語学研修への参加にあたり

留学や海外語学研修に関する相談については、国際センターで随時対応しています。

#### ①海外語学短期研修

これまでに語学研修の募集要項や参加した学生の報告を国際センターで閲覧できるので、準備にあたってはこれらを参考にしてください。

#### ②留学

長期の留学を希望する場合には、語学力の向上を含めた準備が重要ですので十分に留意

してください。特に英語圏に留学する場合は、TOEFL (Test of English as a Foreign Language)の受験とそのスコアカードが必要です。留学先により基準となる点数があり、それを満たすためには通常半年から1年の準備期間が必要です。

また留学予定先大学等において履修を希望する授業科目や本学の履修などについて、留学前に学科および工学部・未来科学部事務部の履修指導を受けてください。

### (3) 国際センターについて

国際センター（東京千住キャンパス2号館3階 9時～17時）

「国際センター」ではTDUの特色を活かした国際交流の実践に向けて、学生や教職員の人的な交流を進めるために、あるときは留学生の日常的な相談相手として、またあるときは日本人学生の海外留学のお手伝い役として、さまざまな支援を行っています。

国際センター千住ラウンジ（東京千住キャンパス1号館4階 10時～17時）

「国際センター千住ラウンジ」では、常駐するスタッフに留学や大学生活について相談できるだけでなく、留学生と日本人学生が交流できるスペースを設けています。また、留学生による語学講座（中国語・韓国語）も開催しています。

## 17 連携大学院協定研究所

本学大学院では、教育研究の充実を図るとともに、学術及び科学技術の発展に寄与することを目的とし、大学院生の研究指導を以下の研究機関と連携して行っています。

研究機関名
独立行政法人 理化学研究所
独立行政法人 産業技術総合研究所
財団法人 電力中央研究所
財団法人 国際超電導産業技術研究センター 超電導工学研究所
独立行政法人 宇宙航空研究開発機構
独立行政法人 海上技術安全研究所
独立行政法人 情報通信研究機構
独立行政法人 物質・材料研究機構
日本放送協会放送技術研究所
独立行政法人 労働安全衛生総合研究所